

十二月三日
長尾信濃守殿

○ 義(畠山) 總 在判

【別本歷代古案】

二二〇四

就賀州之儀、以妙藏院申候。此時急度對(長尾)爲景令相談候間、入魂簡要候。尙遊佐左馬允可(季倫)申候。穴賢々々。

十二月廿日

○ 義(畠山) 總

山村若狹守どのへ

○ 出ず。
(遊佐左馬允季倫の添狀は、之を畠山氏被官の部に)

【清淨光寺文書】

二二〇五

相模
尊札拜見本望候。殊段予一端・盆一枚拜領、祝著至候。仍青銅千疋進入候。併表祝儀計候。恐惶謹言。

五月十日

○ 義(畠山) 總 在判

まいる 人々御中

(本文は遊行上人に宛てたるものゝ如し。)

【栗棘庵文書】

二二〇六

山城
祈禱之札・卷數并扇三本・杉原十帖到來、祝着候。委細温井備中守可申候。恐々謹言。

三月廿一日

○ 義(畠山) 總 在判

栗 棘 庵

【栗棘庵文書】

二二〇七

就河州之儀態注進、祝着至候。猶温井兵庫助可申候。恐々謹言。

六月四日

○ 義(畠山) 胤 在判

栗 棘 庵

【森田文書】

二二〇八

金澤
新春御慶千幸々々、彌不可有盡期候。仍背腸十桶進入候。御賞翫可爲祝着旨、可得御意候。恐惶謹言。

正月廿八日

○ 義(畠山) 胤 在判

參 人々御中

【森田文書】

二二〇九

新年之御慶珍重々々、尙以不可有盡期候。仍雖輕微之至候、背腸十桶進入候。御賞翫可爲祝着旨、可得御意候。恐惶謹言。

三月十日

○ 惠(畠山) 胤 在印

參 人々御中

【北徴遺文】

二二一〇

去廿六日於搦手口之矢疵神妙候。彌軍功簡要候。謹言。

十月廿七日

○ 義(畠山) 續 在判

得田兵庫助殿

【古今消息集】

二二一一

爲祝儀太刀一腰・絹壹疋進覽之候。表祝詞計候。恐々謹言。

十二月十三日

○ 義(畠山) 續 在判

冷泉殿 人々御中

【上杉家文書】

二二一一

雖遠路候、早速馬一疋黒毛上給候。殊更乘心一段、秘藏此事候。仍宮王丸義種々御懇意之旨、祝着候。彌御入魂憑入存候。恐々謹言。

六月十一日

○ 惠(畠山) 祐 在印

謹上 上 杉 殿

【栗棘庵文書】

二二一二

山城
爲改年之祝義、扇子貳本到來祝着候。依之在京之時者種々馳走難忘候旨、猶井上美濃守可申候。恐々謹言。

十二月廿八日

○ 惠(畠山) 祐 在印

栗 棘 庵